

わが

八ヶ岳の美しい自然に抱かれた豊かな創造性と JOMON の精神が息づく高原都市

自然と歴史と産業が調和するまち

茅野市は、信州八ヶ岳の西麓に位置し、八ヶ岳連峰の雄大で豊かな自然に恵まれ、澄み渡る八ヶ岳ブルーの青空と四季折々の美しい



八ヶ岳山麓で異文化交流

自然に満ちあふれた高原都市です。先人の努力により、商工・観光・農業などの各種産業がバランスよく調和し、また、東京圏や名古屋圏からは鉄道や車で約2時間という、大都市圏との程よい距離を保った立地条件を備えています。市内には、蓼科、白樺湖、車山高原をはじめとする高原リゾートを有し、多くの来訪者に愛されてきました。

本市は、平成30年に市制施行60周年を迎えたところですが、はるか5千年前から縄文文化が栄えた長い歴史を持ち、日本最古の国宝土偶「縄文のビーナス」と「仮面の女神」が出土していること、また、国内初の国指定特別史跡「尖石遺跡」などを有していることから、平成30年には市域を超えた日本遺産（Japan Heritage）に認定され

るなど、縄文文化が隆盛した日本を代表する地域でもあります。

豊かな創造性と高い文化が育まれた縄文時代。この地の縄文人は、八ヶ岳の自然に支えられ、共に助け合って暮らしてきました。私たち現代人にとって、自然との共存・共栄、平和、支え合いの生き方など「JOMON」の精神性は、学べき財産であり、私たちはその精神を受け継ぎ、未来に引き継ぐ責務を有しているものと考えています。

若者に「選ばれるまち」を目指して

今、日本は、本格的な人口減少・超少子高齢社会を迎え、そして、頻発する大規模自然災害に見舞われています。そうした中、自治体には、市民が安心して暮らし、

働き、子育てができる持続可能な社会を構築することが求められています。本市では、こうした大きな流れを受け、「第2次茅野市地域創生総合戦略」を策定し、本年4月から計画実現に向けた事業を開始しました。

第2次総合戦略では、「知りたい、訪れたいまちをつくる」「通いたい、帰りたいまちをつくる」「移り住みしたい、住み続けたいまちをつくる」「安心して出産・子育てができるまちをつくる」「安心・安全、快適なまちをつくる」をキーワードとして、まちの将来を担う若者に「選ばれるまち」の実現を目指しています。

現在のところ新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの人が交流を自粛する傾向がありますが、この第2次総合戦略で提案している新しいライフスタイルは、アフターコロナにおいて生きていくものと確信しています。

具体的施策の一つには、茅野駅直結のワーキングスペースと

して平成30年にオープンした「ワークラボ八ヶ岳」における、市内外のさまざまな人々の交流、協働を促す取り組みがあります。大都市圏からのアクセスの良さもあり、ワークラボ八ヶ岳のオープンをきっかけに、多くの都市部の若者が本市と関わるようになりました。こうした新しい感性や技術を持った若者と地元の学生や企業とがつながることにより、新たな事業が起こり、さらなる関係人口の増加にもつながり始めています。この流れを力強く後押しし、さらに広く展開することで、つながりがつながりを呼ぶ好循環を生み出すことが、市の役割であると考えています。

また、本市に立地し、工科技術の研究をけん引する公立諏訪東京理科大学を中心として、この地域が持つ高度な「ものづくり」技術と次世代の無線技術であるLPWA通信技術とを結び付け、新たな価値



国宝土偶「縄文のビーナス」と「仮面の女神」

を生み出そうとする取り組みも進めています。これまで、鹿巽センサーや農業用温度センサーへの応用による従事者負担の軽減、河川水位計への技術応用による災害発生予測、山中における位置情報の発信による登山リスキの軽減など、地域課題の解決を目的として、さまざまな実証実験を行ってきました。今後は、こうした取り組みの実用化と実装を図り、市民の実生活の利便につなげるとともに、新たな産業の形成を推進していきたいと考えています。

本市では、持続可能な地域社会の実現に向け、人が集う場所の整備や新しい技術の活用を進めてきました。今後は、こうした挑戦により育んだ土壌を生かし、さらに

AIやIoT、情報連携などの先端技術を積極的に取り入れ、組み合わせることにより、10年先、20年先の未来を見据えた事業展開を進めていきます。縄文時代には、最も人が集まっていたといわれるこの地域において、恵まれた自然と育んできた「ものづくり」技術、そして未来の技術と縄文の精神とが融合した地域社会を築くことにより、若者に「選ばれるまち」を実現してまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 266.59 km²
- ◆ 人口 5万5481人
- ◆ 世帯数 2万4159世帯

〔将来都市像〕八ヶ岳の自然、人、技、歴史が織りなす やさしさと活力あるまち

〔まちの特徴〕八ヶ岳の美しい自然に抱かれた豊かな創造性とJOMONの精神が息づく高原都市



茅野市長
今井 敦



〔特産品〕蕎麦、寒天、セルリー、味噌、りんご、地酒、りんどう、アルストロメリア

〔観光〕八ヶ岳、蓼科、白樺湖、車山高原、ビーナスライン、茅野市尖石縄文考古館 国指定特別史跡「尖石遺跡」、諏訪大社（上社前宮）

〔イベント〕茅野どんばん、八ヶ岳開山祭、小津安二郎記念蓼科高原映画祭、八ヶ岳縄文の里マラソン大会



「ワークラボ八ヶ岳」に集う新しい感性

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

「未来に向けて 住みたい・住み続けたいまち」の実現に向けて

みんなでつくろう！

都心から1時間の
自然豊かなまち

大網白里市は、東京都心から50～60km圏域に位置し、西は緑豊かな

丘陵部、中央は広大な田園部、東は白砂青松の海岸部という特色ある豊かな風土を有したまちです。古くから豊かな海や自然を背景とした、第一次産業を中心とする地域でしたが、高度経済成長期に入り、千葉市や東京都心部からの郊外型ベッドタウンとして注目され、西部の丘陵地を中心に宅地開発が進みました。さらに、JR京葉線の外房線乗り入れなどの交通アクセス向上によって急速に人口が増加。平成25年1月1日の市制施行により、千葉県内で37番目の市として誕生しました。



多くの人でにぎわう白里海水浴場

本市では、都心からの交通アクセスの良さに加えて、豊かな自然に囲まれた環境を生かし、住みたい・住み続

けたいまちに向けた取り組みを進めています。

子育て世代向けに 施策を展開

全国的に人口減少が進行し、少子化が問題となっている中、本市では、子育て世代を呼び込もうと、子育てに優しいまちの実現に向けた施策を展開しています。

制度面では、小学校3年生までの通院が無料となる子ども医療費助成制度や学校給食費の補助制度、第3子以降の子どもに対する出産祝い金制度を創設し、子育て世代の経済的負担の軽減を図っています。

また、これからの未来を担っていく子どもたちの健やかな成長を支援し、安全・安心な居場所を提供するため、平成30年度に「子育て



本年4月にオープンした「子育て交流センター」

支援館」・本年度に「子育て交流センター」と、二つの施設をオープンしました。

「子育て支援館」では、「子育て支援センター」「児童発達支援事業」のほか、0歳・1歳児を対象とする「小規模保育」、一時的に家庭での保育が困難となった際に利用できる「一時預かり保育」、子育ての手助けを必要としている方を地域がサポートする「ファミリー・サポート・センター」といった複数の事業を行う、総合的な子育て

のための施設となっています。

また、本年度にオープンしたばかりの「子育て交流センター」は、若い世代が増加しているみどりが丘地区の市有地を活用し、「学童保育室」「放課後子ども教室」「子育て支援センター」のほか、本市で初めてとなる「児童館」を備えた子育て支援のための複合施設となっています。多世代が交流できるスペースも併設しており、子どもたちの成長を見守る拠点として多くの方にご利用いただくことを期待しています。

災害に負けないまちづくり

令和元年、千葉県を中心に甚大な被害をもたらした台風15号、19号、ならびに10月25日の大雨は、大規模な停電や土砂崩れ、浸水被害など、本市にも大きな爪痕を残しました。

現在、被害に遭われた方への支援と合わせて、この災害時の対応について検証結果をまとめていくところです。ハード・ソフト面、短期的・中長期的な面、市民・地域・市役所などの担い手の役割といった観点から対処すべき課題を

明らかにした上で、しっかりと今後の災害対応に役立てていきます。この災害を決して過去のものとすることなく、教訓を生かしてさらなる防災体制の強化を図っていきます。

また、海岸地域の津波対策として、市の「津波避難計画・津波避難施設整備計画」に基づき施設の整備を進めています。

新たに整備された津波避難タワーと築山は、防災公園としての機能も併せ持ち、周辺にお住まいの方々の憩いの場としても活用されています。

こうした施設の整備とともに、万が一の災害時にこれらの施設を



新たな防災拠点となる南四天木築山（白里地区）

有効に活用できるよう、避難訓練をはじめ、各種訓練の実施により備えを強化しています。

今後も、市民の安全・安心な暮らしを確保するための施策に、引き続き取り組みます。

住みたい・住み続けたいまちの実現に向けて

本市では、平成23年度から10年間にわたり取り組んできた「第5次総合計画」が本年度、最終年度

プロフィール

- ◆ 面積 58・08 km²
- ◆ 人口 4万9065人
- ◆ 世帯数 2万1763世帯

〔将来都市像〕 未来に向けて みんなでつくろう！ 住みたい・住み続けたいまち

〔まちの特徴〕 千葉県の東部 都心から1時間の九十九里浜に面した自然豊かなまち



大網白里市長 金坂昌典



を迎えたことから、各種施策を推進、また総括するとともに、次期総合計画に着手に移行できるよう取り組みを進めています。これまで進めてきた各種事業の総仕上げに取り組み、市民の皆さまに住んでよかったと感じられるまちの実現のため、また、市外にお住まいの方に「大網白里市に住みたい」と思っていただけけるような魅力の創出に向けて、各種施策を推進してまいります。

〔特産品〕 煮干し、鯛のごま漬け、鯛のみりん干し、真紅の美鈴、黒いちじ、メロン、ハマグリ、落花生

〔観光〕 白里海水浴場、小中池公園、本國寺（宮谷県庁跡）、ひまわり畑、十枝の森

〔イベント〕 おおみしらさとの花火、産業文化祭、白里海岸元旦祭

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

歴史ある産業と新たな企業進出で躍動する
「人と自然と土が織りなす
交流文化都市」1400年の歴史を持つ
国内有数の陶磁器産地

土岐市は岐阜県の南東部、名古屋市から北東へ40kmに位置する美濃焼のまちです。大小200以上の窯元が意匠多彩な陶器を生み出す国内有数の陶磁器産地ですが、その歴史は古く、7世紀に焼かれていた須恵器がその源流とされています。以来1400年にわたり焼き物を生産してきた土地柄ですが、その歴史の中で大きな転換点となったのが安土桃山時代です。織田信長の政策により瀬戸の陶工が本市の北部に移り住み、そこから志野、織部、黄瀬戸、瀬戸黒といった美濃桃山陶が生み出され、当時、茶陶の主な消費地であった京都への一大生産地として、茶陶の歴史、文化に大きな影



元屋敷窯で焼かれた織部（出土品）

響を与えました。現在もその流れを今に伝える「現代茶陶展」などのコンペティションのほか、市内各所で開催される「陶器まつり」や「窯元めぐり」などのイベントに毎年多くのお客さまをお迎えしています。

さて、信長によって現在につながる産業の礎が築かれたといつて

もよい本市ですが、明智光秀とも浅からぬ縁があります。光秀の伯父、妻木広忠は本市南部に妻木城を築城し、城下の妻木郷を治め、光秀の妻熙子もこの妻木郷の出生であるといわれています。広忠の菩提寺崇禅寺や妻木八幡神社には位牌や棟札のほか妻木氏由来の文化財が多数現存し、この地を治めた君主をしのぶことができます。現在、NHK大河ドラマ「麒麟が来る」の放映に合わせ、ゆかりの地として観光プロモーションも展開しています。

表題の「人と自然と土が織りなす 交流文化都市」は、本市総合計画で市が掲げた将来像ですが、本市のこうした産業と歴史、文化に誇りを感じ、市内外の人たちの交流を通じて生活の豊かさを生み出していきたいと考えています。

高速交通網を生かした企業誘致と地域活性化

こうした歴史に育まれ、美濃焼は市の基幹産業として発展し、その最盛期には市内の就労人口の8割以上を窯業関係者が、製造品出荷額も同じく8割以上を窯業関連製品が占めるほどとなりました。しかし、プラザ合意や生活様式の変化、海外製品の攻勢など、窯業界は社会変化や国際競争の荒波にもまれ、その出荷額も徐々に減少していききました。こうした中、昭和50年代後半から市内の産業構造を多角的な構造へと転換を図る試みが進められ、ここでも大きな転換点を迎えることとなります。平成17年の東海環状自動車道の開通です。本市を東西に貫く中央自動車道に加え、南北の大動脈として機能するこの道路によって、豊田市など三河地域へのアクセスが飛躍的に向上し、開通以来、製造業を中心に24社の企業が本市に進出しました。



土岐プレミアム・アウトレット（奥）とよりみち温泉（手前）。写真右には東海環状自動車道が走る

また、60分圏内人口がそれまでの220万人から410万人と倍増したことで土岐プレミアム・アウトレットをはじめ、NEXCO中日本が高速道路路外で初めて事業展開した商業施設「まちゆい」と

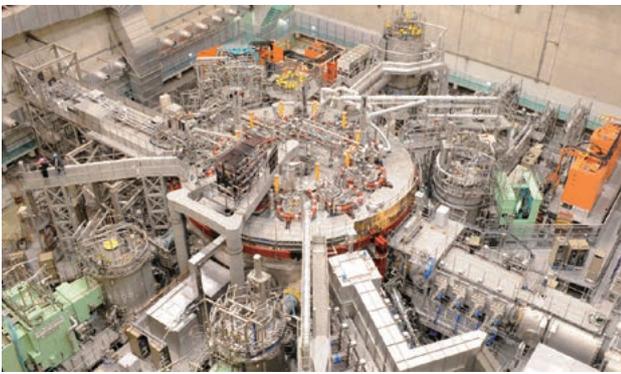
「よりみち温泉」など、交流人口の集結点ともなる商業施設が進出し、本市のブランド力向上の助けとなつていきます。今後も県内最大級のイオンモールの開業が予定されており、本市を取り巻く人の流れはさらに大きく変わっていくことでしょう。こうした進出企業との官民連携による観光振興や、まちづくりをさらに進めていきたいと考えています。

読書と科学に親しむ 健康寿命延伸都市

日本の子どもの読書量や読解力の低下を憂う記事が新聞などで度々掲載されています。論理的思

考や好奇心の醸成、ひいては豊かな人生を送るために読書は大きな役割を果たすもので、本市も子ども読書率向上を重要施策の一つに掲げ、取り組んでいます。本市出身の近藤サト氏を招請し、読み聞かせや読書会、朗読コンテストなどさまざまな企画を通じて、子どもたちがより読書に親しむ環境を醸成しようと考えています。

また、自然科学研究機構核融合科学研究所が立地する本市では、毎年、同研究所により、国際的な学術会議や市民向けの講演会、研究所の一般公開などが行われています。こうした恵まれた環境を生



核融合科学研究所の大型実験装置

写真提供 核融合科学研究所

かし、官学連携で科学に親しむ機会を創出し、子どもから大人まで市民の知的好奇心を育てることを目標に、平成31年3月にオープンした新庁舎の多目的スペースなどを使った科学イベントを企画するなど、科学に親しむまちづくりを進めることとしています。

こうした文化的な土壌を育てる一方、全ての世代の市民が笑顔と安心のうちに暮らすことができる

プロフィール

- ◆ 面積 116.16 km²
- ◆ 人口 5万7726人
- ◆ 世帯数 2万4697世帯

〔将来都市像〕人と自然と土が織りなす 交流文化都市

〔まちの特徴〕岐阜県南東部に位置し、豊かな自然に囲まれた1400年以上の伝統を持つ陶磁器生産日本一の焼き物のまち

〔特産品〕美濃焼、竹皮羊羹、味こはん、てりカツ丼、ころうどん



土岐市長
加藤 淳司



〔観光〕国指定史跡「元屋敷陶器窯跡」（織部の里公園）、土岐プレミアム・アウトレット、テラスゲート土岐、道の駅「志野・織部」、道の駅「土岐美濃焼街道どんぶり会館」

〔イベント〕土岐美濃焼まつり、炎の祭典土岐市織部まつり、八幡神社例祭（流鏝馬）、曾木公園もみじライトアップ

よう、その基盤となる健康寿命の延伸も重要施策に掲げています。「ときげんきモデル」と命名した全世代を対象とした事業では、運動習慣づくり、食生活の改善、歯と口腔の健康づくり、フレイル予防、疾病・重症化予防の五つのテーマで、市民自ら生活習慣病の予防などに取り組むことができる環境づくりを順天堂大学の監修により進めることとしています。

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

わが

創客創人

人づくりこそがまちづくり

歴史から学ぶまちづくり

日南市は、宮崎県南部の海岸地域に位置し、1年を通して温暖な気候で、農業や漁業の一次産業が盛んなことに加え、プロ野球やJリーグのキャンプ地、歴史的な町並みが残る飢肥城下町などを有し、多くの観光客が訪れるまちです。

本市は、江戸時代「飢肥藩」と

いう約5万1千石の小藩でしたが、通常より多くの家臣を抱え、藩として「人づくり」に力を入れることで、周辺の脅威に備えたほか、飢肥杉やカツオ節など藩の財政を支える新しい産業を興す人材を生み、周囲の勢力か

ら約280年にわたって藩を守り、存続させました。

この「人づくり」によって多くの困難を乗り越えてきた歴史に倣い、市の総合計画では「創客創人」というまちづくりのコンセプトを定めています。これは、さまざまな分野において、今あるもの、資源の中から、人々が望む価値を見出し、それを実現する製品やサービスなどを創り出し、「新しい需要」客」を創り、その客を幸せにする仕組みを創れる人材(人財)を育てることです。本市では、このコンセプトを中心にまちづくりを進めています。

若い世代の人材育成

「人づくり」はさまざまな世代が対象となりますが、特に高校生を中心とした若い世代の「人づくり」

に力を入れています。市内には三つの高校があり、それぞれの学校の発見や解決について学ぶ取り組みを行っています。グループワークや地域との意見交換などを行い、年度末に各学校の代表が授業の成果を提案発表するのですが、若い世代が地元に触れ、地域課題の解決について学ぶことは、まさに「創客創人」の考えに合致します。また、授業の枠をいただき、私が自ら講師となって、市のコンセプトや現在の施策について説明を行い、提案発表の講評も行います。毎年継続して実施していますので、課題の発見力や問題解決の手法などが年々レベルアップしており、近年では政策に取り入れられるレベルの提案もあります。このような取り組みを続けてき

たことにより、毎年行っている市民アンケートでは、本市のまちづくりのコンセプト「創客創人」の認知度が、10代で76%にも上り、市政への関心も、他の世代がほぼ横ばいなのに比べ、10代は年度ごとに増減はあるものの、令和元年度は平成27年度比較で10ポイント以上も上昇しています。若いうちから地元の魅力や特色に気付き、誇りを持ってもらうことで、進学や就職でいったん市外に出ても、将来的に戻ってくることや、自分の故郷に貢献したいという気持ちが生まれると考えています。



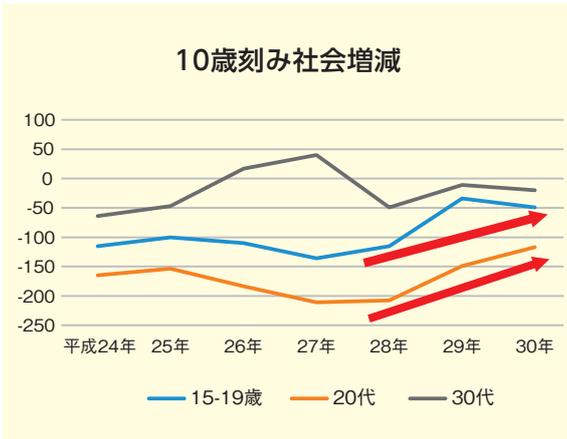
国指定名勝「鶴戸」 ※写真は鶴戸神社



シンポジウムでの高校生の提案発表

働く場づくり

本市では、「人づくり」を進めることに加え、働く場づくりも進めています。ここ数年、有効求人倍率は1を超えているものの、業種別で見ると医療・介護などの専門職に比べて、事務職の求人が非常に少なく、結果として事務職に就くことを目的に、若者が市外に出してしまうというケースが多く発生していました。そこで、事務職を増やすことを考え、目を付けたのがIT企業の誘致です。現在のIT企業は専門性が高いものばかりではなく、未経験者でも習得可能な範囲の業務も多いので、現代版



IT企業の進出が始まった平成28年以降、若者の社会減が緩やかになっているのが分かる

の事務職といえます。IT企業側も、都市部で人材が集まらなくなってきた時期でもあり、地方進出に当たっては特別な補助制度などだけではなく、人材を安定して確保したいと考えていることが分かりました。なぜIT企業を誘致したのかとよく聞かれますが、企業が求めているものと、働き手の若者についてきちんと分析した結果、双方のニーズが一致していたのがIT企業だったのです。企業側のニーズを把握し、スピード感を持って対応したことで信頼関係が生まれ、進出した企業から新たな企業を紹介してもらおうことなどもあり、本年4月現在で市内に13社のIT企業が進出し、約130人が新しく雇用されています。雇用された人のうち9割が30代以下で、若い世代の雇用が改善しています。U・イターン者の割合も4割近くで、一度市外に出た人が戻ってくる際の受け皿にもなっています。

人づくりこそがまちづくり

今回の新型コロナウイルス感染症の影響により、人々の生活や経

済活動に大きな影響が出ています。これからは「新しい生活様式」へ対応しながら、経済活動も行っていくという難しいかじ取りが求められますが、このような困難な状況下にあっても、「人づくりこそがまちづくり」であるという考えの下、前例を踏襲することなくさまざまな人材を活用し、新たな

発想を持って挑戦することが、持続可能な社会へつなげると考えています。今後さまざまな分野においても、「市民が喜ぶような新たなサービスを創り出す人材を育てる」ことで、市民の皆さまが、地域社会で生き生きと生活できるように、幸せな地域の創出に取り組んでまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 536・11km²
- ◆ 人口 5万2317人
- ◆ 世帯数 2万6631世帯

〔将来都市像〕 創客創人 どこよりも誇れるまちへ

〔まちの特徴〕 日南海岸国定公園による豊かな自然や、年間を通じた温暖な気候により、一次産業と観光業が盛んなまち

〔市町村合併〕 平成21年3月30日、日南市、北郷町、南郷町が合併

〔特産品〕 スイートピー、かんきつ類、



日南市長
嶋田恭平



完熟マンゴー、みやざき地頭鶏、一本釣りカツオ、めいづ美々鱈

〔観光〕 鶴戸神宮、飫肥城址、北郷温泉、プロスポーツキャンプ（広島カープ、西武ライオンズ、横浜FC）

〔イベント〕 油津港まつり、飫肥城下まつり、ジャカラランダまつり、日南市花立公園さくらまつり、なんごうシーカヤックマラソン、ノルディックウォーキング

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。